

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 8 日現在

機関番号：82617

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21601011

研究課題名（和文）学校標本の保存・整備を通じた博学連携促進に関する基礎的調査

研究課題名（英文）Fundamental study of collaboration between museums and schools, learned through preservation and maintenance of school specimens

研究代表者

岩崎 誠司（IWASAJKI SEIJI）

国立科学博物館・事業推進部学習企画・調整課・専門員

研究者番号：90259995

研究成果の概要（和文）：

①小学校と中学校では標本を保管しているものの、管理担当者を定めていないことが多い、管理予算がない、標本の管理簿も整理されておらず、記録がない、適切な保管方法も普及していないなど、保管状況が明らかになった。こうした状況を教員も課題ととらえており、本調査研究による簡易な標本管理法が必要とされている。

②本研究が関連し、学校のコレクションに対し専門家の目で再評価と学術的な分類を行った。その結果、全国レベルで希少な標本、地域にとっての重要なコレクションが再発見され、学術的な分類を行った結果、学校博物館として確立され、生徒の利用が格段に高まった。

③本調査研究では、対象として動植物の標本を想定していたが、理科室から人骨標本の発掘や、収容依頼があり、検討を行った。これらの標本の処理について学校関係者に普及していないことから、記録に残されないまま廃棄または死蔵されていることが明らかになった。また、学校に保管されている人体骨格標本（実物）が地域の歴史を記録するとともに、歴史や理科にとどまらず、道徳（倫理）、工学、国語等の教科の内容に発展し、総合的に考える力を育むことが可能な教材となりうることも示唆された。

④滋賀県立琵琶湖博物館の調査では、地域の自然を記録した先駆的な研究者の企画展を行うために調査を行ったところ、地域の学校からこの研究者の遺した植物標本が発掘された。成果は後に企画展で発表する。

研究成果の概要（英文）：

(1)Elementary and junior high school, does not prescribe personnel management, budget management book of the specimens. Teachers are also an issue regarded as such a situation, there is a need for a simple sample management method by this study.

(2)The present study is associated, and academic classification was re-validated with an expert eye for the collection of the school. As a result, the important collections of specimens, rare for the area has been rediscovered at the national level, were classified an academic, school is established as a museum, the use of students has increased.

(3)In this study, which has been assumed as the target specimens of flora and fauna, with human bones and excavation of the specimen, and accommodate requests from the science lab, was investigated from that it does not spread to school officials about the handling of these specimens, that it is discarded or hoarding are left without a record was revealed.

(4)The study of Shiga Prefectural Lake Biwa Museum was carried out research in order to make an exhibition of pioneering research that records the region's natural, botanical specimens left by researchers from the local schools have been unearthed. The results will be presented at the exhibition later.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：時限

科研費の分科・細目：博物館学

キーワード：標本、保存、博学連携、データベース、プログラム

1. 研究開始当初の背景

研究代表者らは、博物館に勤務しており、標本に基づく研究と学習支援の研究を進めてきている。近年、学校から所有する標本の保管・利用、廃棄方法について相談を受ける件数が増えてきている。現職教員の世代交代により標本の履歴の継承が難しくなっていること、大学等で標本管理の基礎を学ぶ機会の少なかった教員が標本管理を担当する年代になっていること、学校の合併や耐震工事等により、学校標本の取り扱いを検討する機会が増えていること等が理由として考えられた。

2. 研究の目的

博物館にとっては履歴の明確でない標本の利用は難しいが、地域の学習拠点である学校にとっては、地域の自然の変化や歴史を扱う上でこうした標本の利用価値は高いと考えられる。教員が標本の管理（登録、薬品の補充や扱い方）を学ぶことを通して博物館の役割や活動について理解を深めることにより、教員の科学的素養が向上し、博物館利用の深化が期待できる。学校標本データベースの開発により、貴重な学校標本の発掘、死蔵されてきた標本の再評価が行われると共に、学校でスクールミュージアムを開催する際に既存の標本と新たに収集する資料を合わせて展示を行うといった、新たな展開が期待される。

学習指導要領が改訂され、学校と博物館の連携が模索される中、学校標本の活用という具体的な課題を検討することにより、博学連携の促進を目指した。

3. 研究の方法

- (1) 小学校と中学校の教員を対象に学校標本の保管状況等のアンケート
- (2) 本研究が関連して開発された学校博物館の状況調査
- (3) 理科室に保管されていた人骨標本の収容

と活用についての検討を行い

(4) 滋賀県立琵琶湖博物館では地域の学校に保管されていた希少な植物標本の調査を行った。

4. 研究成果

(1) 小学校と中学校では標本を保管しているものの、管理担当者を定めていないことが多い、管理予算がない、標本の管理簿も整理されておらず、記録がない、適切な保管方法も普及していないなど、保管状況が明らかになった。こうした状況を教員も課題ととらえており、本調査研究による簡易な標本管理法が必要とされている。

(2) 本研究が関連し、学校のコレクションに対し専門家の目で再評価と学術的な分類を行った。その結果、全国レベルで希少な標本、地域にとっての重要なコレクションが再発見され、学術的な分類を行った結果、学校博物館として確立され、生徒の利用が格段に高まった。

(3) 本調査研究では、対象として動植物の標本を想定していたが、理科室から人骨標本の発掘や、収容依頼があり、検討を行った。こうした標本の処理について学校関係者に普及していないことから、記録に残されないまま廃棄または死蔵されていることが明らかになった。また、学校に保管されている人体骨格標本（実物）が地域の歴史を記録するとともに、歴史や理科にとどまらず、道徳（倫理）、工学、国語等の教科の内容に発展し、総合的に考える力を育むことが可能な教材となりうることも示唆された。

(4) 滋賀県立琵琶湖博物館の調査では、地域の自然を記録した先駆的な研究者の企画展を行うために調査を行ったところ、地域の学校からこの研究者の遺した植物標本が発掘された。成果は後に企画展で発表する。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計0件)

[図書] (計1)

岩崎誠司 貴重な標本との出会いも～出前授業で
宝物発掘～東京新聞 2010、1

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岩崎 誠司 (IWASAKI SELJI)
国立科学博物館・事業推進部学習企画・調
整課・専門員
研究者番号：90259995

(2) 研究分担者

原田光一郎 (HARADA KOUICHIROU)
国立科学博物館・事業推進部連携協力課・
主任
研究者番号：10450628

芦谷美奈子 (ASHIYA MINAKO)
滋賀県立琵琶湖博物館・研究部博物館研究
領域・主任学芸員
研究者番号：50359270

(3) 連携研究者

並河洋 (NAMIKAWA HIROSHI)

国立科学博物館・動物研究部・研究主幹
研究者番号：40249909

海老原淳 (EBIHARA ATSUSHI)
国立科学博物館・動物研究部・研究員
研究者番号：20435738